續五人集

中

續五元集巻之中

自元禄元年
至元禄十年

元禄元年

きさらぎ哀集の後新年よみて

はるゝ所をけん家恋の友　晋子

人の紲(キヅナ)よ石ちらす　畚

雲をあるく俤いとゞく　晋子

事の色あと舎行唱ける

山城の小便買るはとゝの雪り　晋子

何さ人乃夷の宮も祝(イワ)ヒ七八

十字館
雪堂藏書

夫婦のとを戸新しさけすい　晋子

奉幣の後菊のうらひ

杉の根元に楠紫交ぜたるあり　晋子

羽子の白ひるさ雀の集り

白鷺の海うを見るかと似く　晋子

明けそめて師走の月の初もち

吉野しく弱を善くへて　晋子

雪信とへて杉菅軒

鉦を切る櫻の細枝の青みて　晋子

住れくとあの書生姿うらし

下の馬場午新とおくるも　晋子

忘八の赤よ棒よ行くる

拾ふ夏虫樣子の新の足ふん　晋子

月花の焼を分ぬ春のうる

春の寒ふ紀年合の　晋子

幟よ敷屋つ新思ひ出き

夕立も和うからね古さみ　晋子

活鯉の庖丁せよ庖丁もん

大根の葉ふ畑のうらに　晋子

見袋ひし俺る関ぎう事

色しらぬ紅粉とたうせう　晋子

とのあのうハ稲の穂ちれ

世の月ほ浦ふも俺とうふく　晋子

やよ舟ゐをうぬ見て

朴樹寺小乃遺址　晋子

ぬよ[illegible]の盃

作りあり九〜の印乳の都方　晋子

菊萩の庵をを[illegible]

作く和を[illegible]ハ水ふ[illegible]　晋子

誰ら[illegible]ふ裾ふ[illegible]夏衣　仝

恨る洞ふ[illegible]

静御前ふ[illegible]を[illegible]　晋子

空蟬の離魂の[illegible]　仝

いと[illegible]

やけと[illegible]

酒熟き耳ふつき[illegible]　晋子

私語（サノコト）　仝

秋花

花とさしそふ州の一瓶　晋子

隠形をうれしき神の色　仝

西王母東方朔も見えぬ

ふしや鶯の音はさしかき　晋子

あちきなや戸ふたさすく衣の書　仝

やしおりの寝もしら絲也ぬ

茶たく青八師をあり名れ　晋子

夕時雨の苔ふ猿のこゑ　仝

穴いとふ蔓ぬきひ茅枯

ふいかかるとく伊勢の八朔　晋子

満月ふ不行縁を詠めを　仝

久まつ仏ましうめき紙子哀

弓すしをを寒行の忠　晋子

乏ふを食の結ち恒中いて　仝

元禄二年

・

来ふも月出と向きを見

中酒ふえ名歌雪の名食　晋子

[illegible]

四幅對四の掌盤に泳げる　晋子

嘯く遠の頂香くふるき

下草陰ふ夏園ふまるる　晋子

きりの深く蓼紫藤のう

鑵とは出ぐ[illegible]んいけを所　晋子

女文字史の[illegible]

觴[illegible]う扇は國　晋子

さかふ[illegible]の門のあ[illegible]

感ーては思ふ汐を浪[illegible]の面　晋子

[illegible]を折く[illegible]の[illegible]も我涙

[illegible]ふ[illegible]く居る遠人の[illegible]　晋子

[illegible]く一[illegible]の[illegible]

うふひ[illegible]ふ[illegible]　晋子

[illegible]波[illegible]

嘯のちかう[illegible]輪[illegible]　晋子

[illegible]ふ[illegible]

[illegible]ふ解鞍[illegible]世[illegible]　晋子

遷宮にあはぬ泪かゝるの浪
芳野ゝ暦月日もなき紀　晋子
元禄二年
橋下宮とさし火の節
第三
茶師の花橋ゝふかきありく　晋子
引ゝけ松燈あり浦の雪
ワキ月
鴨ハ深峯を入る片月　晋子
双ゆりし我長刀の小刀
第三
はらゝと西末焼く家に舞扇く　晋子

まろくハ舎も深く山ふ　晋子
盃外て鞍らやまれ
平家の陣をあの浦人
船ふけて隠れ行玉盃ふ　晋子
島の中ふ十九る月數
いらても世ふ叙浮く感る角力　晋子
元しし衆の分に出んみ
発意
花鳥ふ夫婦出て行あさかな　晋子
芸ハ神の絵馬かけ像無の棚

梁（ウブバリ）陽を閉ぢて数　晋子

蝦夷山もえ尺余の雪ちる

小原の里　晋子

峰雪のかすかに遠き山の姿

雪あるいきもの　寺乃入相　晋子

今ちんと云し半ば成りて

火燈を踏出ぬ冷ひ　晋子

夕形書く点の湯と成る　仝

けとをべる山ふ

花

花のもとに各黄色なる門司　晋子

下ぶるみるや糸さくら

犬も小ふるも一日は友　晋子

星合の新やとの出る鵲

節々紋ふ作屋のたつ月　晋子

ちとハ倒さ下ぶるる雪

川沿や再ふ出ぬ月見の音　晋子

梶のおもしけるき立薄

いかしう聖ふ我曲の墓　晋子

花もかくしもとて拾ふつゝ
新角の松のいまだ若緑　晋子
ゝふきをひのこる霞被
瓶さしつゝ初ものふてん　晋子
山〳〵晴よ　比良の濃雲
還着くる月の袖の氣朔　晋子
寒霧やげふあて祈ち佛
定井の湯を取く葉かつら　晋子
贄小かを結ふ蓋文

一帥小弟ふ心ふ花　晋子
浦風よりむ栢檀の反本立
庫裏の新をくけ縫　晋子
見とかる清水市
豆〳〵き多惟　秋の月若の香　晋子
住連の内は五山伏ふ
物ふ〳〵く梯子を傾る　晋子
ふもあり花〳〵ふ俗を節ふ
上平寄ふ〳〵ふ鳥の法　晋子

角ゐる男と共に庵の夜

ワキ　ゆくらかきかの岡の下垣　晋子

ツレ　白たくしてまやくに教ゆる　仝

月の新たなる月は新

四ッの新のあくる風　晋子

芭蕉葉を蘆葉と称す家意　仝

摩門の法をまもる迷信

上戸の浮る波の盛やう　晋子

鍋に児法師を老とくるき　仝

月

帳も蔵も吳る蒼地和ら

後の田を尤ら和青の米月　晋子

重ね重の三百町（ハテナシ）坂小出しうゝ　仝

とゆくしき浦の何ら数と倦

鮫ものを花ものを白きも　晋子

何の山は地下の歌ゆみ　仝

英人をあれと寒ぶ

三世をの心信者といふ仏を立て　晋子

かゝるをしらしる詳も悔らん　仝

月

すかせたる秋の頃

生方玉かつらかけてあるかとまつ　晋子

感状をたれ月はかくやきく　仝

漕ぎ出て、ゆくと安房の埋方

何鳥とも知の尾まつふさもみ　晋子

知らぬ所出陸をゝの戎衣

合羽ぬぎ捨て笠軽き雨　晋子

何をつき太く折て埋もし　仝

花をも出酌を立てゝ茶をすゝ

華句

たゝふを似たる腰くゝセとの　晋子

元禄二年

白つゝきたまくなる波しる

右たゝわ波の足　仝　晋子

いゝ碑ほと只影よ月を見て

京なる書て　置（アミ）を見て所　晋子

中ほる甲斐もなくぬ法後

傘屋なて何ふ程よ村時雨　晋子

故人を尋ふ君ら挑灯　仝

[illegible]尼の什象　晋子

袖よりかくれぬ雁の子　仝

青ゝとわかく親ゝ花

楫とる里のたくさん舟

金ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　晋子

東寺は増る加茂して行　仝

世のかるかしてゆくわん

うさ国やむ沈ひ菜も流ゝ　晋子

はゝみ[illegible]桂　早梅　仝

[illegible]を使ふ同じ[illegible]の名

はゝ[illegible]のはすくゝ[illegible]　晋子

氷よりもしも蛟のうゝ

今切とわたる[illegible]　晋子

人ゝしゝ[illegible]の[illegible]

撿梗成乃[illegible]の[illegible]　晋子

悩をすつる扇[illegible]

珠数や[illegible]秋の夜　晋子

於[illegible]毛小[illegible]流まさん

借金乞ひ酒ふやらうく　晋子
又おもの枝よりの車柿　晋子
孤つさ表ふ行ひ自ひ新　晋子
あもの岩ふかうく雪の年
表面ちたふ一筋の芝　晋子
二日の夢よ加し雑町
髮剪の田舎表樣を見て　晋子
所墓への乙うらふく歩かれ
妹を行ひ姉や寒しき　晋子

風よ吹き立くかん鹿瘡
表示のお針子をうかん　晋子
磯の月何物をよまる雨
秋は湯まく上鶴ぬる衣　晋子
まげい知ふゆ訪問
表切を行ひ軍して　晋子
冬の傷の竹は花ふくと
せたき蕎をうけと感年候　晋子
郭公背中尺ふ蕭汁

ワキ
オ三

旅なれさ山をゆく山夏州　晋子
将人のさくらにけるを知るよ　仝
月よりと蒲をうらし去借屋
年ハ世秋大嘗会あり　晋子
時雨しまれ田ホ屋はを入て
子は印とうふ母乃保つく　晋子
修持の茅舎うを云ある
七つ清き世に菩提所のうひ　晋子
おとふ事二つのけうを長ハ

花

花の名も田舎ある里ク家　晋子
所付よつれうらゆや横朔
舅の紙とうん伸るきけうき　晋子
毒風のるまり和歌蔵代
いうる和風よいをくつどうう　晋子
稀人よ酒賞婦を頂しう
さてうれ月しかめて居る家　晋子
白さ事よ蔵走りうる長をい　仝
茶をてもふ蔵中の秋

月

志

山高ハ見うる合点を冷うかう　晋子

ちらる雁のえめ氣の毒

志

屠士等よ衣ハ深て袖の色　晋子

六浦の名の曙うこ

月

くめやうえ海うを格と指ひとう　晋子

其日の祭具見うたる利

何者の踏ちらす道の屎　晋子

はうくて冨士の白雪

月新も皇の先ちや加ちん　晋子

志

振袖の羽織ぬうこ袁の上

知れうこ細を関の咱神　晋子

巣籠う道のうさハ樊もし礼　仝

養白

廟をこうこで蝶の白よ　晋子

菊ふ命よ長ふ彩在く車信

ワキ

夕立うこ風のいさかム　晋子

裙（ツマドル）貸　年華

茅蔦牛人べめ祇門まう　晋子

光

きをふかくふる窓たきそる秋ちかき
風ゆかよ初さかりけき　晋子
変化なりに乗る宰人
寒の夕焼仮ニ竹ぶさく帝く　晋子
下級の結び月うき志ル州
小便赤き秋の何く海　晋子
名月日よ十両むく人
かくや姫くせくふ花ありく　晋子
蜂の巣ふくるき初の立き

月

一時責の海馬也さ涼　晋子
ぬるかさるる新し涼まけ
富門よまつる月の影　晋子
ぬけ月つ為る動き第
人よ雲ちく有そふ傾城　晋子
柄うちちく扇そふ風
秋の料理しき門よさし入く　晋子
竹をそなて夫とさし顔の皮
うき高うる所くのるれ　晋子

月

遠景淡墨の小軸ゝらもとく
甲斐青やまのふゝゝふまの月　晋子

月

湯次まて見すれ酒も肴屋く
下弦小雛やうなる月の影　晋子

市と田ゝて殘うゝぬ町
高方よ高き佛をまうゝ　晋子

白さまの小流に宵中とかゝうん
青葉よ人ゆるまゝ鶯　晋子

ゝ施條畏ゝる松の作像

鍵ゝ新小坂よ出て秋の風　晋子

我ゝ年よ未ゝ娘盗出し

惠よゝ多ゝ法の愛達　晋子

稲花の芳屋もゝ日

うゝひゝ乳母ゝ慰心毬（ニハリ）まく　晋子

のゝまんを毛ゝうゝ定掛く

ゝゝうゝ井ゝをのむゝりひゝく　晋子

月よ義信のもの名を問

此度八幡ゝの儒仏　晋子

粉をのの椀い梅ゝ村の秋

一藝に沈ゝ人を感慈　晋子

麦の穂ゝへ雲ゝめ無き世

何ゝ屋の裡の穴をふさゝセて　晋子

夏の乳つく日ハ岸柴のゝ陰

物ゝ干ゝ中ゝ乃門家　晋子

赤一字蒜炭まての夜寒ゝ

月ハ有れ共ゝ廉の来る節　晋子

武士よ加ゝ様ゝ旅のゝるまい

秤さへ同の来とかゝるゝ　晋子

むくとゝ行ゝ行ゝ秋ゝ

ゝ来ゝ屋ゝ涙ゝ書ゝ情ゝ史（モカキ）　晋子

ゝ屋ゝ泪ゝ紅ゝ藍ゝ心

汁ゝけゝ井の鞦の沐（ツラ）ゝ　晋子

十ゝの盛ゝ花の名

焼筆ゝ有ゝ裏ゝ心ゝ　晋子

秋の夫ゝ眠（ナミ）ゝ

ゝ寄ゝ揚屋の月ゝ　晋子

立

新しき小鍋なりしうぶ紙
月ハ潮ふとうぶ　紙　晋子
遠い月ものうくて
何ぶくも別る茶碗と徒ごと　晋子
はくと秋ありまを踏者
秋の光柳小枝ふのしうう　晋子
汁を　ふ　末のいとも
庇ふ屋の文字を徙せけ　晋子
地ふの竹の嵐もあうぶ

鞠をつとしく出ぶ　晋子
雲の　林を　鶏の　庵
楽ひんとなりし蕗の花咲て　晋子
元禄三年
風よりもうくきも君う門
ワキ　光雄へくぶと　起　叶の糸　晋子
月よのこる桐の葉分塔ぶ
ワキ　ぶふくぶ　光小君う宿ふ　晋子
るくぶ　浩るも　遠くの秋

才三

すまふ立て居き男沈もしく　晋子

ワキ

鴨のこゑ[illegible]ふ[illegible]くもれいぬ[illegible]竹藪

屋根ふきうけ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]宿　晋子

何こはさふ[illegible]月の泊こうら　晋子

浮草をとふ[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]ゝ鳥

亦

こゝみふかく絡[illegible]の乃紅（モミ）　晋子

少[illegible]ゝ[illegible]ゝ猫の尾をふまる

白雪ふたきふ[illegible]をかふ[illegible]きて　晋子

月

（ツトコロ）

政[illegible]れ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　晋子

宗匠[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]　晋子

花

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　晋子

[illegible]子の[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　晋子

[illegible]板[illegible]ゝ[illegible]車押せさる

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]（ウヒ）[illegible]ふ[illegible]　晋子

立ちも揚げ枝を折り繰り堪　晋子

出でぬるふる馬ふる　神

出でと考へ入れし月姿　晋子

ぬる（立ル）詠（ヨミ）さ仕て月代する家屋

ぬる思ひ入らるれども　晋子

つるとも素色のおのの中

柳柳の色の木屋の枝の垣　晋子

木槿の外ハ垣の宮ハ桑

紅の奥部ハ月ハ月ハ月ハ　晋子

帆柱の入使ふ法師時て

ふるもの雀法師も陽まく　晋子

根つきもとしるもの分繁

不ふる浦の牛ふ沒を沒正　晋子

身法もとの敬の年位

土地へ所ふ福流（ヤフサメ）る　晋子

女使ハこそ　揚中

鷺の（ワイタテ）揚ふる法師中松の西き　晋子

人法ふの松いとる法し守

月

窓梅一りをさそふころ　晋子

夜風ふき出せばふ杭ゆらぐ

麻料（シロ）をもつる塩の入江　晋子

隠れ住む月のかる延月

傳雪ふる茅屋のたまり僅（ワスカ）し　晋子

糸尾のあきも新き指立椀（チナム）

あるも夫情を因　老犬　晋子

初しけの名もかろき青柳（アヲヤギ）

笠寺よ十八日の月をうん　晋子

ワキ

才三

こゝ[illegible]を[illegible]八年をつゝき　晋子

立ワ年の跡を剃を酒つけて　仝

庵[illegible]の梅ゆもれる月の氣

ちいさき鑓（ユリ）をやふ丸窓　晋子

物[illegible]べき[illegible]の泥（デイ）のかゝるん

[illegible]後の夜長も人の代盡り　晋子

為るも似ぬ女[illegible]

ゆきつまり舟よ寄り日　遅夏　晋子

湖者もゝ幸くあるべしの味

年玉おくりて礼ありけん　晋子

栖象よりの書をいふ云ふ仏

小坊主絵にかるゝ花をかてらふ　晋子

法師の人ゝ答そ口ふみ

いとゝ師走の市鳥　晋子

月ゝをふをはのう鉢をとゝ

旅をとゝ仕る井三　晋子

このもろ〳〵みちく事はむつき　仝

二日　梳初（すかし）そめる心数の香

棄捨仏くやうしまふまちす花　晋子

尼位の所　桐の　唐華

目病ゝ門ゝ立る名日新　晋子

つまよ走ほうゝ渡犬の乳

山の井戸を走仏や筋乃け　晋子

新の白ゆきふ高面の紙

振袖をつかのゝ新けく　晋子

ゝをくゝをゝ初ふ　盃

月

浪の自波戸の泊もとまみれく　晋子

稲刈り初尾かかる器物雲

家ごとにいろり武蔵屋玉府　晋子

市人の肩よ枝たく嫁ごもを　仝

嗜花のこころくふ塩烟

ナケ句

まゝ落さめぬ鶏冠青のり　晋子

勝ふ京ハ羽織をきく長く

明

絡まかく稀ふ偉子義の紙　晋子

山一ツ皆躑躅なるを久月東　仝

小筆さかゝハ土用ゝしく敬

鉦の書もまゝふめつゝ曼荼羅　晋子

文話ゝあこさのひかをる

忘

出ばまくハ江戸西ふ信舟　晋子

引ゝ雅の山をとを白し

島沈ふ小富のゝ曲り坂　晋子

西空ゝ夜のゝ桂竹

忘

古君のやりて歩ゝて杖ゝふ　晋子

戒名ゝゝ長ゝ人

櫻の咲あるをみて日をくらし　晋子

鶯み渡る夕の月新

花

六條の堂を詠めて花くもり　晋子

数くもを行かけて織雲

忘

治部の絵馬絞よし新　晋子

振袖のかるかるあまる物遠い

いろある絵を尺八よりなく　晋子

松風ハ茶のゆめを風ふきおと

一貫あれハ新まきて行く　晋子

忘

子を呼る人遠うまぬ生れて

庵き庭茂と高のかるる新　晋子

文車やくぶの物を行る土用干

忘

乞ふ酒を　女　樂　制　晋子

浅月はうやましけれ見人

秋の獨の　芒を　蛇　晋子

小便不習ふも恋しきまくれ　仝

ひくめ踏をも思ふ昔前

こ像子をめて生る孔白髮　晋子

小反りの太刀の中あるとかけれ　晋子

上田八行く植ても苗のつや

未よいく傳の手ぬぐ宗川（オサ）　晋子

鳥よ出数一二修の音

東堂よかく寺もく行きる菓の丈ケ　晋子

うら初く酒屋の庫よ涼しん

雪ゐさ寄しと餅（メチ）を千ス　晋子

雪解ふる恋の長ち雨

茅ゐのそ元食の玄関人まれ子　晋子

清定の祝ちと門ちと之の秋

年ち就神乃名古屋ハ吹　晋子

ちとく寒ちる雨

亭主如屋ちと酒ぶんぐと　晋子

月の玉の出ち月ふきて

京死しと京まれ枕那ちん　晋子

五ツ巳ちれおちれ鐘

伊神寺よこ伝信の渡を輝し

いとかく芦麦折面紀の澤（メキ）ち　晋子

冬深く秋をとらぬ紫蘇の実　晋子
酔てねむるゝ梅の下臥
春の夜は三十間の安き瀬々　晋子
さけ地やむひつちまるゝ芥の花
神ならぬかゝりて八幡とよき犬　晋子
組天井は天人の数
銅
蓮の葉に翡翠乃新たなる　晋子
一面は瑠璃の色のかゝやき
襟を膝をかゝれ　遊　晋子

返

志ほの浪湧くや夕汐の舟
一二三寐八景のよ時月を待きて　晋子
風に蓮華をさし流る大和川
次第ある武者の軍を聞ますく　晋子
ちは体ゞ行仙もうれまく聲
佛みて禅と云はるゝ寮の桜　晋子
唇く鼻紙よるい独女めく
おもひふぬ梨の切口　晋子
ここをやむとえさきし挑灯

世まへとて人切とぶらん　晋子

時人の新詩集も花ところ

ちらさ及古ハ惜し風の尾　晋子

冬ハ杉結下の秘合しき

蕃ふとうそふ杉宮ま風　晋子

訂水の好ぶふ結ふ髪

麻セし子の何ふ装てすを位　晋子

さまふ刻そ乃ちき栗姜（シャウガ）

ちけ冬ちふ四五文の菊　晋子

羽ふの芋鞠とをけて動く猿

魚ふ子ふ大服ふも丈おし　晋子

鼓ふ敲よ花樹ふ奥の庭

蔵の屋をふくたそうう　晋子

親子ふ洗ふ百姓と呼

ひふ洞ふ籠を次てやる　晋子

生業ふ石ふ清と撰ふ

こふふも砌ふ宮ふと　晋子

待ふ山ふふこしおと

秋とと年玉扇のけて色く　晋子

艪ちる月ふ[illegible]と送[illegible]

花も柳もつてるか宗論　晋子

心始いと[illegible]果る日は老

ゆきの川安[illegible]の柳をかき流し　晋子

大[illegible]ふ[illegible]しき庶の物ふれや

アケ高去　揚枝をふしく拾ふ文　晋子

川面ふ揖ふ[illegible]の[illegible]

ロ十月　月しろ[illegible]やむ而　晋子

[illegible]をの古仏棟上の柱　晋子

初雪を師走[illegible]

人[illegible]をとゝみて[illegible]歌

雑[illegible]白仏の七夜信仏　晋子

[illegible]

[illegible]の簾[illegible]の唐の立竹　晋子

秋の[illegible]仏王子八[illegible]五番衣

神田まつ[illegible]出[illegible]見分　晋子

西[illegible]の[illegible]

いさきふかき金くひよ初茄子　晋子

茅の子の多ふきちらかす

命の恩しらるる　盗人　晋子

ぬすびとはかりに出く

沙弥の五徳くるくも　我よ　晋子

雪の表ハ炉次の七紀よ

子ハ杖よ　あるる　老の小便　晋子

立ちくらくもる　春風

名月の竹を見むる　村雀　晋子

むさかうる　秋積し　帳の表

萱う　鰐石しよ　萱く　後　徳　晋子

豆　盃の帰京の　碗ぬ　名表

初花よ　ふきく　塗道の雪　晋子

桐の　や　土用の中も　考日

蔦を　京ふ　初月ふ　久　晋子

入門よ　ぬ　船の　禅をわ　今

照月よ　灯　出む

服を　ぬ　三三孫の　秋　晋子

旅にて夜の臥よりく物を聞きて
月清をしらしに二階にのぼせき　晋子
あつまの東宮八代宮に入る新月
作りかさき稚ハ指もはくしに　晋子
塩シ舟を茅ものひよ川邊
立て形りよ紀聲の神丸　晋子
書面の物乗ゑ色酒の時
四方の秋凡よ蘭とる山　晋子
遠の多ぬ書とよむ程の宮の月

蘭よ作きさる嵐やさしさ　晋子
客人(マロウト)よ親ハ帰(カヘリ)し花の時
俗もつとしる涅槃会の日　晋子
小住居ま又建立次第の居　全
連寺耳の宮まし　風
杖作も芝るもうるに突ゑる　晋子
石切の多く門の夏
とり奥もつもや法凡ち　晋子
寺子絵と凡由るれの拙さ

粉ら[illegible]と身代ちの人の風　晋子

掃屋をとうくもとる曉

亥

彩らし[illegible]菓子かきの図　晋子

瓶の[illegible]呂ふ入うとの月

が義門よりを和八流うく風茄子　晋子

縁ちををきの名の初荒

花

本堂ふてはぶくき念仏　晋子

箒もくをつうきものふう

散まとと夜茶まあ巳花盛　晋子

かるくの風のようをを帰く　晋子

風のけとうを送数関舟

入海をそうう浮るえこ香　晋子

元禄四年

たけて巌の先をかを打

苦焼の売を投ら原まの面　晋子

稲初尾せめてこま発を脳ふく

角カら原子ハ似合ふ下茅　晋子

ちけきえ巳をこふ亥病

蓋し紋て香く花ハ多　晋子

修飾のきめ小二成る社司

猪形りの茶を作る雲の風　晋子

樸の手きばも猫何ぬ猪

亥

きぬく木猪の後すきまき　晋子

包ふ人鶏形乃種

簸附小大きち知る栗の音　晋子

二葉の猪もかしこくもなる

孫まてらく閑閑乃髭　晋子

たちうまてもる年尾の章

抱子も兄弟連ハ命ふ悲ハ　晋子

裏ま俗名を書ハ石塔

世ま房はくハ十ヲもふうん　晋子

亥中ハ何ゑやせし夜長仏

人稀ま黄ふ冨の黄ふ為て　晋子

木の葉ふ横く竹の火葬のさ燃

旅人ふ分く宿の魚賣　晋子

別袋ふ為る俗買う馬

恋

菜秤の石の穢も片れなし　晋子

浮舟の笑ひをまねぶ泡の中

恋

聞とらうへく男よかりうら　晋子

喰さまし縁も志ましらぬ蓋ホ

吸くくやしき遊人の屋　晋子

口をそらせく素男ふる

新(ヤウ)和化(ナリ)月みて仕りん野(イナ)彩　晋子

和化の麻ふきく浮舟の中

金のを指ふる人を抱ふり　晋子

恋

恋

恋

村女ハ見かゆるとも反哀

先(キ)と辭まを家傾城の下戸　晋子

性を志ほうく英女を抱孫

絡の見へ矢ふも膠(ニカハ)をそぬ多姫　晋子

対して没出神あの手

海苔よ箱面をいくきて　晋子

元禄六年

門立の浮世ハ盃の十三日

はかけ新糸よ　朝の嘯　晋子

江ハ内ノ山ヒ方屋敷ヲ造

雲ヲとかた富士ハ探出　晋子

おかし脇ヨすつる　貂

いけ人ヨ赤子の角ひかりあり　晋子

逃しの杖の幸き肉桂

床ハ美性安ヲ高る竹枕　晋子

芋俗まく窓の灯青ヲく

只仏名を　青　禅門　晋子

三年月ハ萩垣ノ出

弁三月

月家ヨ級幾かりの豆俗りく　晋子

買汁を神ヨしる芸の風

玄

かうき亡八の杉檻を尺る　晋子

後を拭る芋の仕習ひ

叶先キハ高ク出ヨ渦田川　晋子

徘和さへ角仏の連

玄

こうかくて大ヨり神の序賛系　晋子

解口の音羽の滝ハ長雪し

白鷺所の冬枯の山　晋子

寢てもとる子を母の乳飯

貧サ乃つのれの風もいとれる架　晋子

下ル　秋ハ初めてしき物なて

吹この主し人の指をとれ切る　晋子

玄

菓子よつよき菊の香

秋ふのくる地をわる履の音　晋子

蟬九月ハ初ろ花の姿

アヲ句

光の高ほや庭の茶牡　晋子

あさの風や涼ふき花の休ふ

ワキ

蓋よ菌の生ル　手洗　晋子

帆先き白ハ脊（セナカ）懸る月

紙帯しく田舎屋根を葺く　晋子

伊年の書ふ書ふ石の塔

理井ふ立し　牧柱　晋子

細工よ和て思ふ人

玄

奥くのこのふ百遠ひ柳　晋子

組よ赤ふ料理方

山ふ之海を泉ふ　晋子

津柿咲くく村の寒田

自寿ハ満面ニ花のかな　晋子

世の凡俗ハたりかな

糠を祈ふる犬ハ痩くく　晋子

下の垂のかくる竹

曝くく昼食くふや椿の葉　晋子

淋さし小雨系を見ぬ春を哀

寒の月流くく星ぬる　月

俳かいきてのほる六船

殺人先ツ蜻ふこまくく　晋子

仮屋形ニ新ニれハ麦畠

京ハ祇の仲くく　腰毛と　晋子

花の時ふよ一日乃俳

二百くハ人くまくく数ニの石　晋子

寒の名を雁高くくふ

化粧を志くまく新分の穀　晋子

乞食のくく　表の一石

霧ハ水汲ムくふ月東くまくく　晋子

いなむすかく稽古を脱く寒さかな　晋子

出陸ふかしかしかしかし寒　晋子

寒陽一さいよりそそき角

花の陰彼岸くの居やくらい小町し　晋子

蝶鳥の名とそそむもとまるか

初うて神祇ふ　蝶堆の紫　晋子

代屋よ　仏ふ　薮の雪流

牧原の雲はは中より数の立て　晋子

皆ふ古ハ春は田業の後の月

秋の名残の名残の　牧笑　晋子

原夫よ寒い酒屋やはしき

ちゃ仕て　物やそへ大吼て　晋子

田川の小神もうるむ奥深

かくしら行ける稽の橋口　晋子

角力を崩れ村のさも入

秋の秋雪切をと軽むし　晋子

葬礼も人のうるもうるく

三更ちゃ　江戸稽の雲　晋子

きやうこそいまはもむ夜長

蘇よきへくて庶家の家うれ　晋子

照る月を福屋の仕板のうへやく

彩雲の彼方に舟漕かけし　晋子

夜明の雑子の山の樵夫

五七十し何のあくしれ去の風　晋子

松茸板をたゝの焼き苺莚

洗濯の赤き数珠子うたけ　晋子

流るゝ頃の竹

月

ぬるみも沈みそむ西の月　晋子

蓮の實ハ仏のワきし粮なん

形すき板よ走るし　福お　晋子

ちりはさへ男性をしき

戸杉やさて書ある鶏の尾　晋子

擬集物形解の法を屋さく

内の赤ちゃれハ女仏の一得　晋子

元禄六年

ちゃ丑月の山を見かゝる

乳香子宮く羽織をとゝのる　晋子

柄ゑ市にゐる小田の捨秋

はち磐て雪法を結ぶ冬籠のこと　晋子

その術新よ似ゝて冴ぬゝ

二十四五まで定まる也　心　晋子

加へを書る小　拙云の酒

人かゝも接ぬ新るいしゝ八武士法て　晋子

斗の蓋を敲ケハ水ゝ京の月

納屋ハ寒ゝよ　猪ゝ猫撞　晋子

法雑食をのけたく春

初太刀男ゝの俤の歳市　晋子

松作ハ口ゝ弟ゝ御ゝ

坊を還りハ石牡丹ゝ家　晋子

野紙のゝ結ゝ慢ゝ

草勤ゝしゝ屋ゝ峯ゝ月　晋子

樗の木ゝ椎茸の出る雨ゝ

半田の所の一ゝ出ゝ　晋子

老顔ハ眉ゝ竹む

悪

誰を確の文殊普賢ようれしさん　晋子

なる花を仏の御ちかひ後

旅業僧ようなる姿　を　摘　晋子

元禄六年

リキ

花蜜に彩も彩心ハ苦しみ元

かるみく身は夜川流しき　晋子

秋の花うれ　切酒の　柳

清しと人ぐるるん　刀　拾　晋子

ゲイ俳ウ和ハ志ガ笑ウ俳ウ

蹴も只鳴し老乃　称名　晋子

うさ付しも小恋のや色し

山の神毒戸をきうとを開く　晋子

煙　掃よ笠も蓑もかうそ

赤飯よ酒を花　紫あわと　晋子

四つの穀八月のおうの穀

花の庫三宮加持の行ひ年　晋子

うらえよハかうるしきと角螺（サイ）

拾る飯まても有る一の日　祀　晋子

雉子なく山ふもとの麦のよはせ　晋子

かとゝぎす比已の十刻も一声を

数珠切ゝ三悪尽のうへし

月

醉ゝ庐山乃こゝろ哉あきの　晋子

ふるゝ髪も肩の絡あけ

月の宿さゝはゝふて実倍ハ　晋子

木好きも無用ものゝ萩

小神て乃枕なくさみハ大系　晋子

むなうへの魚ゝ舟

やふ入の別しをあれ後をし　晋子

花の後よ江ゝて負ゝ老平閑

二つあゝ巳ゝく帕多ゝ忠　晋子

夜ゝ長ゝ多ゝ旅の菊ゝ

ふの菊ゝ年ゝ病ゝ姫の子　晋子

神ゝ化ゝ物仏ゝ神ゝ信し

和田恩和ゝ名行ゝ有ゝ　晋子

ゝ朝ゝ蕾ゝ百ゝ素ハ摘ゝ　晋子

[illegible]初めて恥しき
尺七女房よりもてし唐紙　晋子
行基よりの鶯　紅葉を折
此比の鶯ゆうやく茶の湯先　晋子
[illegible]へ住て呼し小船頃
[illegible]より[illegible]　浮世貫　晋子
[illegible]中機しく酔きまきん
結[illegible]の証拠なし[illegible]後ろ　晋子
白毫垢の[illegible]をまろ如下谷道

占ひ[illegible]神子は宿札　晋子
おかるかの[illegible]の[illegible]哀
勾[illegible]の[illegible]かの[illegible]
物[illegible]て酒呑[illegible]八[illegible]香川　晋子
世[illegible]の[illegible]よりし我山　晋子
[illegible]歩よ[illegible]衛と[illegible]
散くよ居[illegible]くを灯と　晋子
懐の[illegible]を酔て押[illegible]
月　[illegible]の月[illegible]の家乃[illegible]　晋子

門の柳をとるかたく悪しく仕度の山
所々の書付見るも世の中
親の家をみやさまの顔
行手をうめよくとあふしく　晋子

一芝をかかげ商人の考おく
やぶ屋や戸や青の月　晋子

すすふの刀弟てきをぬる
濱焼の月を不らとる花の庭　晋子

咲るを絞し半井乃門

孝行をとる食の中まで仕乃　晋子

送り仕て送り尺くまで下涼

旧月の後といいをぬつゝあるさ　晋子

小屋風きをけるの杉の鼓金口

町せまく階をまけて頭尺る　晋子

利木蒲萄のさきあきの青

扇の下へまきをれげゝく　晋子

俳屋のたまる白山の温泉

志門の高敷精の新のやさて　晋子

大枝ハ花盛人もあつみかな

挙句　菓よりかなまさとく落る蜜の子　晋子

オ三　月みてく如使者とうくき　晋子

岡よりあまれ紅ハ之の世桃の青

肩て風しるふ駕うきう　親　晋子

むけうや襟へさしの奴の泉

表　硯清茂と高やせうあく　晋子

三すの球をきむ　唐

月　まゝつと嚔をとやしに初の月　晋子

山の色ひかりはしれ行うり

初ものをかるゝ合歓の下闇　晋子

焦に蒸ふいくまを焼

表　ひとゝ人を高をきゝ行ゝ　晋子

波しきを先の彩ひくき原

松ゝけを近江ハ沢ゝ小　晋子

舟人の裸小笠やきの峰

ワキ　柳をはしきく川を光　蟬　晋子

柄をたゝふ月の東まゝ
躍りて肩をおとして森へうつり　晋子
おいをめぐる代もあふ氣の風
白をゆる二の汁　う盃　晋子
星おとしうき鬼の　霊謁（クモイキ）
見ちらす京の襟喰く別小　晋子
折ふし小者ともゝ心川養垣
神ハお模ふこゝろくと鳴　晋子
ちやもうとふへ東京の雲め

食のあき志賀の山越自ず雪　晋子
ちゝ日をとうとする芝のゝ氣
雛祭ふ蕨先の櫛ふ鳴鳥　晋子
を朱ハ乳母汁ゝ偶偶師
杉菜ゝ乳ハ蓑の板厳　晋子
荷をとゝ生く巌出る水
俤ハ皆耳を寒かる山下風　晋子
恨ふ卯の月利蕨先
酔へも力のつゝき　頓堵　晋子

[illegible]

初鶯きくを女をハ買く氣あるを　晋子

一のやうな女よ成く花の傘

[illegible]句哀

山吹打ふく人の哀　晋子

家椿(イヘツバキ)八重ハ木樵をうかゐて

秋ふる志多多ゐ京昆布の巻　晋子

欅(ケヤキ)の石の蔵ゐ氣の疲

山茂を拾ふ山ゐ打ちらしさ　晋子

一時ハ揚屋の稽古ゐ[illegible]

股を[illegible]ゐ[illegible]を嘆さく　晋子

青の[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ酒

秋の菓も[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ人を編　晋子

青面や[illegible]り碁石のゐ[illegible]き

下哀とと[illegible]へて百姓の脱(ナラ)　晋子

さ[illegible]く[illegible]ゐ追[illegible]舟の[illegible]き

一向宗ゐ南无阿弥陀仏　晋子

法役[illegible]の樗さく門

切レ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]　晋子

月

木曽なる本洗ひ曽月の川音
百性乃泣こと云を哀れ秋　晋子
初魅やうく荷葉の宿りん
月は舟あること新酒ハ船し　晋子
辺と泣を又すくるち家
ゆくとうく畫深ちるも　眤　晋子
巷すの家の蓑（コヤミ）定まる園の音
傳ハ男猫　武方ハ妻　晋子
縁つく後家のそふる柳

恋花

花の皮天町や志のあるん　晋子
二三儀汁椒芽麦ちゃさ
馬小ゆれく逝る　盈人　晋子
一小屋樓て住ふ　松方
什京をうハ云て　深山　晋子
我ハ人ちうとあ調ふ雨日
恋
ちゆんをちを志ちゆ恋ちゆ　晋子
柱詩の舟ら旅人の月
家の音駅軍ハ履ちゆ　晋子

下市のとやの[illegible]盛

弱の初穂の稚の新の春風　晋子

鶉のとゝり来をとゝけ小筆ゆる

笹の紫の移ふるやゝ小雨深し　晋子

手を拍てゝ[illegible]の灯

移載にくし日移り枝紅　晋子

[illegible]きゝ鶯と[illegible]

ちらもくとゝ水植ハ東流ふ[illegible]　晋子

舟積を惜よ[illegible]流る仙移

屋漏も伊勢も十分の作　晋子

四季て罵る[illegible]杖

彼岸中ハ湖の如き[illegible]　晋子

元禄七年

[illegible]小日庸[illegible]貝吹て

月乃屋[illegible]四扉乃門　晋子

祖父[illegible]火桶も[illegible]　仝

下京八宇浪の囊[illegible]

坊主[illegible]蓑ハ松[illegible]　晋子

月

怪恠ものすごくて居るハツ下り
息吹うくに雇机の針　晋子
田の畦小豆苗把て投て蛙
百姓のちゝ心編笠の花　晋子
行燈の月ゆしさ浅猪久後
新小袖ちてうゝ称乃肉　晋子
後縄ょ魅のさりれハ雪くし
唐のちゝ茂おうゝく　晋子
要之の梅は梅の花ものち

むつまじきあり志のこもてをく　晋子
いさゝうの砂ゆさ金ものつゝひる　仝
富士編の竹ゝ記四
夏菊ものぶ(ブト)ふされゝやゝ作ゝ　晋子
あぐゝこゝ小俗ゝる
年ものを家棒の樸(サヽ)も茂ちゝく　晋子
常解ゝ屋風長ゝ物
居事稲こゝ物次東京ゝわ　晋子
稗ゝ拾ゝ月ゝ竹ゝ

幸磯へ雇の出る秋のくれ　晋子

小ちゝ浴る月はさ川

鹿ぞ鳴しくゝ行て西の海

上ゆりふ弾く歌

小栗清むに市言文せて高雅　晋子

花のさかりを嚴筆用

廿三

人物と人のうるゝむ耕す　晋子

多入沙うる鍬つむ栗

ワキ

蕎の月ふ伊紙の幕　晋子

元禄七年

一紫をあふすゝく鱗

廿三

さう穂出て踊るん　晋子

月更て十ゝ出すや茶枕

いけの菓子や貸戸の内　晋子

ちやまを手て茶ふ和に毋

吉原ふ行ふ姫ハ多ゝ家　晋子

多中ハ古姫を作ぬ大唐氣

使のものをかゝむる　昌長　晋子

月

さゝ竿をうちを形よ弱りし
夜半の月てこ風が音を聞せをや　晋子
花ちつてこと点ふ芝をうち揚枝店
玄のあるやまよりいく令　晋子
十文やあるく宮の紫門
五六分ふ紫の作まると立る涼線　晋子
老てさへ孫よち老とおりしぬ
幽池ふ条を繰るのしま　晋子
建もちうゝふ華

家家ふくこ二人八ちに筆を尾　晋子
背へかゝるふ紫ふる風呂の月
西所のさ地く爆き八ちく　晋子
林の遠くうふ鶴の羽
ちしうゝ泊八十わると花のうて　晋子
被ふゝ尾かゝまの風
茅屋さ山ふ情の御　晋子
横簡る帳簡のふを吹て
麻花うへ棒を投ふ　晋子

花

アヲ白玉

元食の中小納言殿 奴

市原し蔵しと金を論ずく 晋子

一ぬておくとてつかうと花盗

母の物うし出又 入り屑 晋子

乞巧奠をなく侍 通る

略よ数の形をる蔵の海老 晋子

元禄七年

移んうつよ第ますけとうと

女人堂ちく 法もおとれり 晋子

角力の地をかりて名を分

社さへ五帝十帝 立なりび 晋子

軍をかしを祖父の時

測ハ衛を義慶堂の上を盗 晋子

浪華のひををを扇をく

車ふをこふ数り 晋子

山ぬの不平節数しふ事

獅子の中ふつるや花の陰 晋子

かしこ中受戒の児の白素絹

能をしらんよう使かるる歟　晋子

京都のゆかの袖ふる音する

生ふる紫とゆるしそ物おもひ　晋子

白粥のさむる夕暮しぬ俺

書をとあいもとらふ短冊　晋子

拾ひのおるふ十志

庵ちやうも怪な男ぶり　晋子

菜ふるかまりて通る帆舟

地蔵を建し夢の除夜　晋子

[illegible]して赤阪人なる大井殿

たうしくあるる百姓のら　晋子

元禄八年

絵月をて師匠を抱もと

紅衣の醫師の後ふる杖　晋子

林数を積む石花売のら

秋風の中山辺ハ寂し　晋子

肖戸の畑を粉活ふあるん

陽炎の那粉ふ物るむをふし　晋子

大あらし吾妻清流の城

かなぶんの上戸は酒屋ありきなり　晋子

ちりぬるを人の知るとき

亦

朽ぬるを見るとはなしに　栗（クリ）　晋子

甚酒池の　サカ　ハ　角組

学ぶ方坪の地とし見る　晋子

元禄八年

山吳の人あてもい書

こさぬる鈴よ　みるちんあやく　晋子

元禄九年

七種や勝を器に男を

一ぬる所ぬる風呂は骨組　晋子

淋苦の句ひとえにあること

押絵やく人ハ雲ぶ詠めて　晋子

絵の方をあるる和の花

琴を抱く力ハ乳母と二人じて　晋子

絵をかくにさいはもをし夜の月

牛ゆう使ふく車　押入寿　晋子

五

名吾やうふかする吸物　晋子

抱り琴の弦をこのつる庄少繁

夕月ふやうと待る遠の岸

雪子志けまる惟高の改　晋子

狭をかしく金釵ある新

内之本をとゞめていくく休る作　晋子

立ゝ宮やの伝の紺屋も結ぶ

橋板ゝ むかゝの川柳　晋子

石の火入お燭る　居屑

月

吟ゝ吉ゝ流行まむ蓮の月　晋子

吟味仕つる士ハ　寓

寿三

志賀ゝ分男盡の去て　晋子

元禄十年

出貸ハ扇をゝゝセて夕涼

赤多拭ふ　迷ふ　蝙蝠　晋子

集の除ゝを色の羽ふて

濁酒　出し　塚ハ義あて　晋子

什枝の召て躍るゝ丹

恋

めいろの乳をたゝく初風花　晋子

いそしく答を尋ねる法の門

川音かゝる油屋の綿打　晋子

脂(アブラ)かつらの木枕を拭く

著そなを青ほうる油扣　晋子

青の凡帳ちぎる舟の蓑

青ハ盛の子ゑ格の聟滴(アニ)　晋子

玄関をふさく甲なりつ

耳杯も白鷺の毛をとく　晋子

月

山伏のおろかなる家を敢老て

月ハ淋しき化屋の見物　晋子

惜るるはかゝい鶴嶮

花

穴明キの當ちまこさハまる花の園　晋子

山かゝる星ハ光ハ時ハ

年

和ゝて尾年ゝ和の中や先無　晋子

牡丹よ雨のかゝる白へ見

花

筆賢ハ白馬ゑ拾る花の雲　晋子

蓋の沼乃竹のうくひす

第三

屋根葺の障子を張る法

晋子